

福知山の

変

その十



「挑戦は

ふつうのまち

から生まれる」

「ふつうの人の、ふつうの物語を描きたかった」と話すのは、漫画家こうの史代さん(56)。「この世界の片隅に」などで知られるこうのさんは、2016年に福知山市に移住。最新作『空色心経』(朝日新聞出版)では福知山を舞台に、由良川の河川敷など、なじみのある風景が細やかに描かれている。「福知山には、誰もがここは自分のまちだと思える日本の原風景がある。普遍的な物語を描くのにぴったりなまちだと思いました」般若心経をモチーフとした本作では漫画として新しい挑戦をいくつか行っている。そのひとつが紀元前のインドと現代の日本が交錯する世界を、青と黒の2色で表現すること。「漫画は描けばずっと残るもの。だから同じことをする必要はない。思い切って違うことをしたほうがいいかなと」2025年で漫画家生活30年。「これからも、ここ福知山で自分がワクワクするものを見つけてその感動を伝えていきたい」そう語るこうのさんには、常に新しい風が吹いている。

こうの史代

(漫画家)

福知山の変は、福知山で挑戦する人を応援するプロジェクトです。

変わろう。

きっと、

もっと

よくできる。



福知山市
Fukuchiyama City